

ニュースレター

いりおもての森から

林野庁 九州森林管理局
西表森林環境保全ふれあいセンター
平成19年7月発行 NO:6号



ホウオウボク

県立石垣少年自然の家主催事業 "島っ子探検隊" を支援

6月30日(土)～7月1日(日)に、沖縄県立石垣少年自然の家が主催する "島っ子探検隊" が西表島のヒナイ川のピナイサーラの滝、海中道路周辺及び後良川周辺において「大自然からのメッセージを体感しよう」のテーマで催されました。

当センターでは、ピナイサーラの滝等への登山案内を要請されたことから、これに先立って登山ルートの確認及び自然体感のメニューを検討するなど準備を重ね、島っ子探検隊1日目に同行しました。

当日は、探検隊員20名と少年自然の家職員など一行は、石垣港を午前9時出発し西表島上原港へ上陸、その後マレー川のピナイサーラ登山口まで移動した後、登山等に係る諸注意をふれあいセンター職員の遠山から説明を受け、準備体操をして登山を開始しました。

西表島の海域からピナイサーラの滝までの約1時間30分は、大粒の汗を流しながら登山道沿いの植物や折々に表れる爬虫類などの小動物を観察するなど、自然を体感するルートとなりました。

到着したピナイサーラの滝の上は、快晴ともあって眺望は素晴らしく、先に到着した組の歓声が響きました。少年自然の家の先生とふれあいセンター職員が、眼下の島々の説明をした後で昼食をとりました。

昼食後は、西表島固有種であるショキタテナガエビなどを観察、その後滝壺へ下り、水とのふれあい、最後はマングローブ林での自然観察及び干潟の横断など盛りだくさんの自然を体感した探検となりました。



ピナイサーラの滝上



ピナイサーラの滝壺



マングローブ林での自然観察

津元九州森林管理局長が八重山諸島を視察

平成19年6月19日～21日の3日間、津元九州森林管理局長が八重山諸島を視察されました。

19日は、石垣島に到着後、西表森林環境保全ふれあいセンターに立ち寄り、職員訓示のあと、竹富町長、沖縄県八重山支庁長を表敬訪問、その後、石垣港から上原港へ渡り、浦内川、ヒナイ川、仲間川河口周辺の国有林野などを視察。



20日は、林木育種センター西表熱帯林育種技術園、環境省西表野生生物保護センター等を訪問後、仲間川の「森の巨人たち百選」「サキシマスオウノキ」のほか、自然休養林の利用実態及び西表亜熱帯樹木展示林等を視察。次いで波照間島を視察しました。

21日は、石垣市の当センターで職員と懇談し、業務に係る指導を受けました。

ヒナイ川・西田川利用実態調査（6月）を実施

6月の利用実態調査（入込み調査）は、ヒナイ川を6月7日（木）、西田川を8日（金）に行いました。

梅雨時期で両日とも雨天にもかかわらず多くの方が訪れ、ヒナイ川・西田川の利用者は、合わせて12組68名、カヌー艇数は49艇でした。ほとんどが東京方面など県外からの来島者でした。しかし、なかには地元の方で初めて来た故郷の秘境を楽しんでおられたのが印象に残りました。



環境省・林野庁の地方連絡会議の開催

平成19年6月22日に那覇自然環境事務所、沖縄森林管理署及び西表森林環境保全ふれあいセンターの地方連絡会議が開催されました。

各機関における各業務の取り組み状況、今後の展開及び連携についての報告がなされ、それらに係る質疑応答を行いました。今後とも、共通する課題についての認識を新たにして、今後の連携を密にすることとして会議を終了しました。



石垣地区官公庁連絡会に出席し、ふれセン業務をPR



ふれあいセンター業務説明

平成19年6月29日に、石垣市に所在する官公庁30機関の連絡会が、石垣地方合同庁舎の会議室において開催されました。

当番機関として、会議の設定等のほか、杉野所長がセンターの業務概要及び国有林ビデオによるPRを実施し、国有林の果たしている役割についての理解を深めました。

海神祭で開催された第15回爬龍船競漕（ハーリー）大会に環境省・林野庁合同チームで参加

旧暦の5月4日（6月18日）、豊漁、海上での安全を祈願し、海神祭、すなわちハーリーが行われました。ハーリーとは、船競漕のことで、地域や島によって「ハーレー」と呼ぶところもありますが、八重山地方ではこう呼びます。

環境省・林野庁合同チーム「チーム・マイナス6%」は、団体ハーリーに出場し、出場者数72艇を9レースに分けた第8レース出走しました。第8レースに参加した8艇のうち、7艇の成績でした。環境省の若い力と林野庁の老練が組んで戦いを挑みました。



ハーリー大会風景



チーム・マイナス6%

往路は非常に健闘し良い戦いを演じましたが、復路は石垣の強者どもにかわされ、力不足を感じました。

また、チーム名紹介時には、環境問題についてアナウンスされ、非常に有意義な参加となりました。

森の巨人たち百選のオヒルギ及び船浦ニッパヤシのモニタリング調査を実施

平成19年6月26日に、森の巨人たち百選の浦内川上流オヒルギに係るモニタリング調査を実施しました。このマングローブを構成するオヒルギは台風等の影響で大木になるものは無いところですが、この巨木はかろうじて残ったようです。それでもアコウ等の絞め殺し木に覆われ、青息吐息の所を、樹勢回復処置により息を吹き返しました。その後のモニタリングとして調査を行っています。

平成19年6月28日には、国指定の天然記念物となっている船浦のニッパヤシのモニタリング調査を実施しました。このニッパヤシ(*Nypa fruticans* Wurmb.)は、ヤシ科に属する1属1種で、灌木状の雌雄同株のヤシで、フィリピンなどの熱帯に分布域をもつものの台湾には分布せず、台湾を飛び越えた沖縄県の西表島の船浦と内離島に分布しており、我が国唯一の自生地となっているとともに、本種の分布の自生地北限として植物地理学上重要となっています。ニッパヤシを被圧しているオヒルギ等の被圧木を除伐した後の、生育環境の変化状況をモニタリングしています。



汽水域のニッパヤシの調査

九州森林管理局黒川計画部長が西表島の国有林を視察

平成19年6月13日～15日の3日間、黒川計画部長、田代指導普及課長及び渡邊企画官が西表島を視察されました。



浦内川地区自然休養林での視察

13日の石垣島到着後に、西表森林環境保全ふれあいセンターに立ち寄り職員への安全指導のほか業務に係る意見交換を行いました。

14～15日は、西表島における業務実行箇所をつぶさに視察をされ、なかでも自然休養林の取扱や木道設置を計画している箇所については、自然環境に配慮した取り扱い、環境教育に係る方策及び整備計画等についての指導を受けました。

西表島の樹木

デイコ、サンタンカ、オオゴチョウは、共に沖縄の三大名花とされています。このコーナーのスタートを飾る植物として掲載します。

1 デイコ 別名：デイゴ(マメ科デイコ属) 梯姑、梯梧、梯沽

(方言:アカヨーラ(石垣)、ジグーキー(石垣・西表))

インド原産。落葉高木、葉は3出複葉で互生、花は3月～6月に咲く真紅の総状花は見事である。街路、学校、公園、御嶽などに観賞用として植栽される。

昭和47年に県の花として制定された。



2 サンタンカ(アカネ科サンタンカ属)山丹花、仙丹花

(方言:サンダンクワ(全琉球)、チャサンクワ(西表))

南中国～マレーシア原産。常緑低木、葉は対生、花冠は高盆状で朱紅色。花期は4月から翌年1月頃まで咲き長い。庭園・街路樹として植栽され、花弁の先が尖るベニデマリ、淡黄色のキバナサンダンカ、深橙黄赤色のジャワサンダンカなど園芸種が観賞用として導入されている。名は中国名の山丹花によるという。

なお、サンダンカ(三段花)と呼ばれることが多いようだが、正しくはサンタンカ(山丹花)。



3 オオゴチョウ(マメ科ジャケツイバラ属)黄胡蝶、黄紅蝶

(方言:オーゴチョーアコウテ、アコウテ)

インド原産。低木で葉は2回偶数羽状複葉である。枝には下向きの鋭い刺がある。花期は7月～12月頃まで咲き、花色は赤橙色が普通であるが黄色もある。専ら観賞用として庭園等に植えられている。名は蝶が群舞しているように見えることから名付けられた。



林野庁 九州森林管理局 西表森林環境保全ふれあいセンター

〒907-0004 石垣市字登野城55-4 石垣地方合同庁舎内

TEL:0980-88-0747 FAX:0980-83-7108 URL: <http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/huresen/huresentop.htm>